

大腸 CT-Angiography における可変注入の有用性について

1. 研究の対象

2024 年 4 月 1 日から 2026 年 8 月 31 日までの間に、国立がん研究センター東病院において診療上、術前に大腸 CT 検査が必要と判断され、造影剤を使用して検査を実施した 18 歳以上の方を対象とします。

2. 研究目的

術前大腸CT検査では、血管走行や遠隔転移の有無の評価を行うために、造影剤を使用して検査を行います。本検査では造影剤注入中に造影剤の注入速度を変えない定速注入法（従来法）と、注入中に注入速度が変速する方法（可変注入法）を用いられます。私たちは定速注入法と可変注入法それぞれの方法で撮影された術前大腸CTの血管描出能を調べることで、有用な検査に貢献すると考えます。

3. 研究方法

大腸の造影CT検査を行う際に、従来の定速注入群と可変注入群を比較し、得られたそれぞれのCT画像の主要血管（腹部領域）の描出能を評価し、見え方に違いがあるかを検討します。

研究実施期間：研究許可日から 2030 年 3 月 31 日までとします。

4. 研究に用いる情報の種類

年齢、性別、病歴、疾患、身長、体重、CT 画像、撮影条件、造影剤注入条件等です。

5. 外部への資料・情報の提供

本研究は単機関研究であり、他研究機関への情報の提供は行いません。また、本研究では外部機関へ委託する業務はありません。

本研究で用いた試料・情報を国内外の機関で実施する将来の医学的研究のために、研究終了後も大切に保管させていただきます。新たな研究に用いる際には、国内外の規制に則り、あらかじめ研究計画書を作成して研究倫理審査委員会の承認や研究機関の長の許可を受ける等、適正な手続を踏んだ上で行います。

なお、新たな研究の概要・研究機関については、新たな研究に関わる機関（試料・情報の授受を行う機関すべて）公式ホームページ等にて情報公開いたします。

・国立がん研究センターが参加する研究に関する公開情報

https://www.ncc.go.jp/jp/about/research_promotion/study/zisshi.html

6. 研究組織・研究責任者

国立がん研究センター東病院 放射線技術部・宮崎 紘樹

7. 問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出ください。

また、情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

なお、この研究が適切に行われているかどうかを確認するためや研究の科学的意義を検討するために、国内外の第三者の立場の者が研究対象者のカルテやその他の診療記録、研究データなどを拝見することがあります。このような場合でも、これらの関係者には守秘義務があり、個人情報は守られます。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者

宮崎 紘樹

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

国立がん研究センター東病院 放射線技術部

問い合わせ先

電 話：04-7133-1111（代表）

研究機関の長

国立がん研究センター 理事長 間野 博行